



日中は残暑を感じますが、朝夕の過ごしやすさ、心地よい風と虫の音色などから、確実に夏から秋へと季節が進んでいるように感じます。気がつけば、令和5年のカレンダーも残り3枚となりました。10月ともなると、1年のちようど折り返しです。各学級では、これまでの学習や生活習慣の定着状況を確認しながら、課題を確認しながらそれぞれの指導に努めているところです。引き続き、御家庭での御理解・御協力をお願いいたします。

普賢岳災害を語り継ぐ日 9月15日(金)

普賢岳災害記念館(がまだすドーム)の語り部ボランティア 林 京子 様を講師にお招きして「普賢岳災害を語り継ぐ日」集会を行いました。

大きく4つの柱で話をされました。

①噴火でできた山の話について(普賢岳と平成新山)

(PayPayドーム53個分の溶岩ドーム、124mも高くなった平成新山。)

②6月3日の大火砕流について

(避難する車・救護に向かう車と運転する人の気持ち。火砕流で亡くなった人。焼け残った一本の柿の木の話。)

③噴火がどのように始まり、続いていったのか。

(溶岩ドーム、火砕流、土石流、火山灰・降灰の被害、ヘルメット・ゴーグル・防塵マスクの着用、島原鉄道遮断→フェリーによる通学、土石流による海の汚れ→漁業への影響、避難場所・仮設校舎における苦労、救援物資について)

④災害から命を守る

1) 周りの人の動きを見てではなく、自分で逃げる判断ができるようになる。

2) 災害の特徴を理解しておく。ニュースなどに関心をもって聞いておく。

3) 身の回りに災害が起きたら、どこに・どんな方法で逃げるか、連絡の取り方を家庭で話し合っておく。

講話を聞いて、「突然襲ってくる災害の怖さを感じた。災害に備えることの大切さを学んだ。正しい知識をもつ大切さを学んだ。」という感想を述べました。また、代表児童が、「講話を聞いて、改めて雲仙普賢岳災害について、学ぶことができた。ありがとうございました。」とお礼の言葉を述べました。



<火砕流で焼けた旧大野木場小学校>



<大野木場小学校を襲った火災流の跡>



<焼け残った柿の木>



<定点付近の焼けた車>

生活ボランティア委員会・運営委員会による 自発的「あいさつ運動」

9月11日(月)から15日(金)、2つの委員会のメンバーで、集団登校より少し早く登校したり、集団登校後すぐにあいさつ運動に参加したりして、全校のみんなに、気持ちよくあいさつの声を届けました。

あいさつの声を広げ、気持ちよく一日のスタートをきることができればと思います。保護者の皆様、地域の皆様には、本校の子供たちに温かい声かけ、見守りをしていただき、感謝申し上げます。



3年生 スーパーマーケット見学 9月21日(木)

社会科「お店ではたらく人」の学習で、浜勝ストアを見学させていただきました。途中、敬老の日を前に郵便ポストへの手紙投函を行ったそうです。その後、お店で働く人々の工夫や役割について、実際に見学したり、お話を聞いたりして学びを深めました。見たり聞いたりしたことを熱心にメモしました。



また、この見学を受けて、国語の報告文を書く学習の題材として、作文を書きました。どんな内容だったか、とっても気になります。

2年生 畳工場見学 9月27日(水)

気持ちのよいあいさつを交わす2年生。薄田畳店を見学し、畳作りの魅力と工夫について話をいただきました。子供たちは、事前に質問することを準備しておき、熱心に学習を進めました。どのような機械を使っているのか、畳が完成するまでの順序について、畳縁の柄についてなど、多くの質問をしながら、生活科単元「あの人にあいたいな」の学びを深めていました。懇切丁寧に教えてくださり、ありがとうございました。



5年生 宿泊体験学習【国立諫早青少年自然の家】 9月28日(木)・29日(金)

「きつかったけど、楽しかったです。」という感想の根底には、充実した体験活動であったことを物語っています。手作りの体験活動の葉、キャンプファイヤーの進行・グループで準備した出し物等から、可能性を秘めた自分たちの力を実感したのではないのでしょうか。

友達と対話し、自分の気持ちを確かめながら、仲間との絆を深めた「イニシアチブゲーム」、ライフジャケット・ヘルメットを身に付け、前に進むしかない沢登り、暗闇に明るさと暖かさを放つキャンプファイヤー、薪割り・火起こしをし、ドキドキしながらの野外炊飯(飯ごう炊さん・カレー作り)など、体験した本人にしか分からない感動・達成感を得たのではないかと思います。



<イニシアチブゲーム>



<沢登りでの集合写真>



<幻想的なキャンプファイヤー>



<トラッキーの横断幕を掲げて>